



多様な関わり合いを通して

主任 今村 久美子

新年度が始まって早2か月。子どもたちは、少しずつ自分の世界を広げており、幼稚園ではあちこちで多様な関わりが見られます。

《ゆり組さんの遊び、おもしろそう!》

天気の良い日、5歳児ゆり組は裸足になって、砂場で友達と力を合わせ、大きなシャベルで長い水路や大きな池などを作っています。4歳児もも組の子どもたちは、ゆり組の遊びを目を輝かせて眺めていました。「ゆり組さん、すごい作ってるね!」「水が流れてる!」と少しずつ近づいていきました。やがて、砂場の端で「ゆり組さんみたいに大きい池をつくるの」とスコップで穴を掘り始めました。自分もやってみたいと思い、まねながら遊びに取り入れていく、もも組です。

《小学生って、すごい!》

隣接する青柳小学校の運動会があり、校庭では5月半ばから毎日のように小学生が短距離走や表現運動などに取り組んでいました。幼稚園の子どもたちは、園庭で遊びながら、鮮やかな小道具や衣装を身に着けて踊る小学生を興味津々で見っていました。小学生のキレのある動きに目を丸くし、思わず手足が動きだす、もも組の子どもたち。保育室に戻ってから「さっき、こうやってたよね」「ぼくもできるよ!」小学生の演技の動きを友達同士でやってみようとする、ゆり組の子どもたち。「小学生って、すごいねえ!」小学生へのあこがれが膨らみます。

《「幼稚園に入ると、こんなことができるのですね」》

定期的に幼稚園で開催している「あおやぎひろば・キッズ」は地域の未就園児と保護者の集う場です。小さな子どもたちの集いに、先日はゆり組の3人が手作りの「へんしんクイズ」を披露しに来てくれました。○の形が何に変身するのでしょうか、というクイズです。ゆり組の描いた絵を見て「ドーナツ!」「しんごうだ!」などと指差して嬉しそうに答える小さな子どもたち。保護者の皆様も「幼稚園の年長さんは、こんなことができるのですね」と感心しながら一緒に見てくださっていました。

ここ数年は感染症予防のために、直接的な人との関わりの体験がどうしても少なくなっています。幼稚園では、withコロナの生活の中で、場や機会を捉えながら「子どもたちの多様な関わりの中での学び」について考えていきたいと思えます。

小学生の姿を見つめる
4歳児もも組
「すごいねえ」



5歳児ゆり組の
砂場遊び
「つなげて、
水を流そう!」
4歳児もも組が
見えています。